

2026年(令和8年)

第93号

(1月4日)

平安だより

HEIAN letter

謹賀新年 京都教会ビデオレター1月号 配信中 ~東教会长発~



ビデオレター1月号が京都教会のホームページで公開されています。パスワードは各支部長にご確認下さい。
<https://rkk-kyoto.jp/archive1/20260101>



左記の QR コードをスマートフォンで読んで、ご覧頂くことも出来ます。
 地区単位、各家庭においても視聴し、1ヶ月の修行目標とさせて頂きましょう。

京都教会発足 66 周年 ~感謝のつどい~

京都教会は今年、発足 66 周年を迎え、12月 7 日に全館を使用した「感謝のつどい」を開催しました。10 時から始まった 1 部セレモニーで、はじめに参加者全員で“ハッピーバースデー京都教会”を大合唱。大きな拍手が起きました。その後、東教会长はお言葉の中で「周年は感謝と誓願」とし「因縁使命があつてこの場所に京都教会があります。ここに悩み苦しむ人がいたから、この場所に教会が建てられたんです」と建立の意義を述べると共に、「京都に住む方々の悩み苦しみを取り除くために、私たちは日々、仏さまの教えを学んでいます」と会員の役割について述べ、一人ひとりが菩薩行に励むよう促しました。

その後、第 14 回ありがとうコンクールの表彰、青年部ユニセフ街頭募金の出発式が行なわれ、大きな拍手のもと締めくくられました。

2 部は全館を使って催し物を開催。東玄関前にテントを設営し、フランクフルト・焼きそばを振舞いました。食堂ではぜんざい・土手焼き・豚汁などの汁物、地下体育室ではマルシェを開催。なす・柿・天津甘栗の詰め放題、お米・手作りジャム・丹波産黒豆・わたがし・ポップコーンなどの販売、また、会員による手作りアクセサリーや野菜の販売をはじめ、折り鶴体験、ダンボールによる子供の遊び場を展開しました。舞台上ではロータスアンサンブルの演奏も行なわれ、懐かしいアメリカンミュージックに踊りだす会員も現れました。これらの様子は館内中継し、館内のどこにいても他の様子が分かる試みがなされ、午後 2 時までの間、老若男女問わず、皆が楽しんだ様子でした。なお、青年部ユニセフ街頭募金は短時間にもかかわらず、75,851 円もの浄財が集まり、後日、送金しました。



令和8年、私たちは「仏さまと出会い サンガと語り合って 心田を耕そう」を実践して参ります。

京都教会のホームページもご覧下さい。<https://rkk-kyoto.jp/> (右のQRコードからご覧頂けます)



終い供養～一年の締めくくりと2026年に向けて～



2025年の一年の締めくくりとした「終い供養」が12月15日10時から行なわれ、多くの会員が参拝しました。

東教会長導師のもと、法華三部経の如来寿量品第十六・常不輕菩薩品第二十・觀世音菩薩普門品第二十五・陀羅尼品第二十六を読誦し、その間、皆が自宅から持ち寄った過去帳からご先祖のお戒名を読み上げました。一年間のお礼言上として今回が2年目となり、各家の総供養を呈していました。

東教会長はお言葉の中で「ご先祖さまに支えられ、サンガで助け合った一年だった」と振り返り、「新年を感謝で迎える心づくり」とこの終い供養の意義を解説しました。また「今年は会長先生が米寿の慶事。先生

は“まっさらな一年”とご法話下さっている」と述べ、再出発・一から出直しの年だったとし、京都教会においても『仏さまと出会い サンガと語り合って 心田を耕そう』とのスローガンで取り組んできた一年だったとしました。私たちの行ないをずっと見守ってきて頂いたご本仏さま、会長先生におかれでは、会長就任後30年間変わらず『心田を耕す』と導いてきて頂いたことを感謝の念で振り返りました。そして、私たちが具体的に取り組むことは『目の前の人、目の前に起こることを一つ一つ大事にする』ことであり、それは「ありがとう」「お陰さまで」「お互いさま」「ごめんなさい」の言葉を使うこと。ずっとこの言葉が出てくるかどうかが大事だとし、66周年感謝のつどいの中で行なわれた、ありがとう100回運動表彰の作品を振り返り、日頃の生活の中で知恩（恩を知る）・感恩（恩を感じる）を感謝の言葉で伝え、報恩（恩に報いる）行ないをすることが大切だとしました。

最後に、来年は丙(ひのえ)の午(馬)の年回りで、激動の年になるとされ、その前に心構えを作ておくこと



が大事で、今年一年間精進して成長してきたことに自信をもって来年を迎えましょうと締めくくりました。

ありがとう1日100回運動～14回目を迎える～

ありがとう1日100回運動推進委員会は12月7日、教会発足66周年のセレモニーの中で、最優秀作



品1点と優秀作品2点を発表し、記念品を贈呈しました。今年で14回目を迎える本コンクールには25点の応募があり、作品の多くは、夫婦・親子・孫などの家族のこと、健康に関

すること、ご近所などでの気づきを表現されたものが多く、ありがたい気持ちが込められていました。

●最優秀作品

『ありがとう そのひとことを 自分から』

●優秀作品

『ありがとう そばにあなたが いてくれる』
『お陰さま、目・耳・口・手・足に、ありがとう』

一食地域貢献プロジェクト2025～目録を授与～

一食地域貢献プロジェクト2025 京都委員会（委員長：教会渉外部長）は12月1日、朔日参りの式典の中で一食贈呈式を行ないました。

今回は3団体に贈呈され、そのうち、公益財団法人関西盲導犬協会と公益財団法人 京都新聞社会福祉事業団に東教会長から目録が手渡されました。その後、それぞれの団体は日頃の活動内容などを発表し、参拝した会員からは温かい拍手が送られました。

